

	<p>2 講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 豊島選手の生い立ちや、障害者スポーツとの出会い、人生観などについての講話をいただいた。児童一人一人が真剣に聞いていた。講話後に、児童から「健常者でもパラスポーツに参加できるのか」という質問が出た。大会によっては参加可能だという回答だった。パラスポーツへの興味・関心の高まりが表れた質問だった。 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハンディキャップを乗り越えて努力しているスポーツ選手との交流を通して、障がいに対する理解やその中での努力の様子が分かり、互いに尊重したりよりよい社会を作ろうとしたりする意欲が高まった。 ○ 日本を代表するスポーツ選手との交流を通して、児童は次のような精神を学んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・目標を持つこと。また、目標に向かって努力すること。 ・自分を応援してくれる周囲の人々への、感謝の気持ちを忘れないこと。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度講師に招いた豊島選手は、昨年度招待する予定だった。本人の体調不良のため実現できなかったが、児童は既に調べ学習を実施し、競技用車椅子も事前手配していたため、現在の6年生は車椅子体験も事前に行っていた。今年度も豊島選手に依頼したことで、学習のつながりを持たせることができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症対策をしながら実施しなければならず、体験学習自体実施が危ぶまれた。差し迫ってから日程が決まったため、希望していた車椅子体験に必要な競技用車椅子を手配することができなかった。 ○ 高まってきた意欲や実践力を、今後も維持・発展させていかなければならない。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピック教育について、引き続き総合的な学習の時間に学習材として取り入れたい。特に、これまであまり児童が会う機会が少なかったパラリンピックについて、競技のルールや選手のプロフィール等に出会わせるなどして、学校教育の様々な場面でオリンピック・パラリンピックの理念について指導を続けていきたい。